

呉錦堂を語る会通信

NO.37 Nov. 2017

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橘 雄三 方「呉錦堂を語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員

発行日 2017.11.15



『浙慈 呉錦堂先生六旬榮壽録』 「壽言」 (後半) 日本語訳

本第37号では、第36号に続き、楊寿彭編集『浙慈 呉錦堂先生六旬榮壽録』 「壽言」の後半分の原文と現代日本語訳を掲載いたしました。

現代日本語訳については、編集委員の力不足で不適切な箇所も多々あるかと思ひます。ご叱正願ひます。

なお、スペースの関係で、「壽言」を10分割し、第36号では1～6を、本第37号では7～10を掲載いたしました。縦書きですから、各頁、右から左へ読み進めてください。 (編集委員 橘 雄三)

7

先生が、宗国および僑地を篤く心にかける思いは、世の中に

変動があつても、変わりませんでした。

そこで、これを見ると、上は政府の褒奨・

栄誉から、下は世論からの称揚まで、こ

れらは、先生の一生に対する評価として

も、異なることはありません。先生の積

誠・盛徳の行いを永く見聞きし、深く心

に打たれるものでなかつたら、どうして

このようになりえたでしょうか。古の、

公のために家産を投げ出したり、土と結

ぶのに財を傾けたりした人と視(くら)

べ、先生は、ほとんどなおこれにまさり、

虚名などではありません。

先生は天性、親孝行で弟妹思ひです。

十二歳の時、病気の生母羅太夫人(大奥

様)の身近にいて、薬を煎じ、寝ないで看病しました。

十六歳で羅太夫人が亡くなった時、諸弟はみな幼少で、

祖父母は存命でしたが、

先生は、心身を損ねない

かと心配し、悲しい思い

を抑えて、普段以上に弟

たちと仲良くし、継母唐

太夫人には、生母に事え

たのと同じように事えま

した。郷里の人たちは、

このような先生を人物と

公篤念宗國僑地之意。歴變不渝。于是

見之。故上之政府之褒榮。下之公論之推頌。對 公之一身

亦莫或殊。非 公之積誠盛德。濡之也久。感之也深。詎能若

此乎。此以視古之毀家急公。傾財結士者。殆猶過之。非虛譽

也。公秉性孝友。年十二侍 母羅太夫人疾。躬侍湯藥。衣

不解帶。年十六。羅太夫人棄養。時諸弟皆幼。王父母

在堂。公恐傷重。闔心強節。哀思友愛。諸弟過手。平昔事

繼母唐太夫人。一如所生。以是鄉族器之。當 公出就買時。

以親在不忍言別。麟初先生曉之曰。丈夫當志在顯揚。耕

與商何擇焉。方今天下大局。關繫半在通商。爾他日能握商

權。藉以上報君國。下濟鄉族。是吾志也。今 公果能力承庭

訓。克符初志。然先德早世。已不及見矣。

訓克符初志。然先德早世。已不及見矣。

みました。

先生は、商人になろうと村を出るとき、親に別れを告

げるに忍びませんでした。麟初先生は諭して言いまし

た。一人前の男は志をもって名をあげるべきである。田

を耕すのと商売とどちらを選ぶべきか。今まさに、天下

の大局からみて半ばは通商に關係している。おまえがい

つか、商權を握ることができたなら、それによって、上は

君国に報い、下は郷里の人々をたすけるのが私の願いで

ある、と。いま、先生は父の訓えを受け継ぎ、立派に初

志を遂げました。しかし、尊父は早世し、すでに会うこ

とができませぬ。(以下、次頁へ続く)



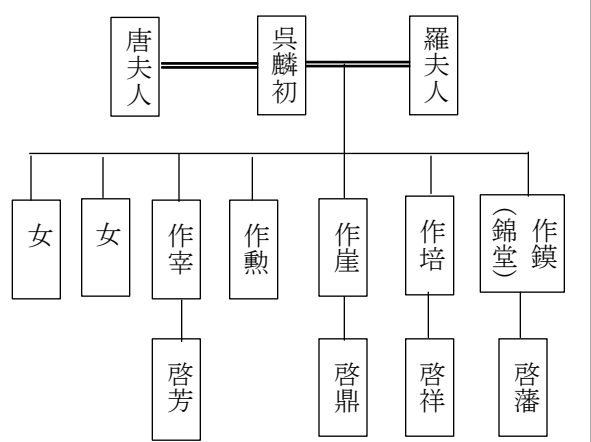
呉錦堂故居 2008年編集委員撮影

『浙慈 呉錦堂先生六旬榮壽録』 「壽言」 日本語訳 (その8)

8

麟初先生が亡くなった時、先生は、まさに海外で商売のさなかで、訃報を聞き、星が飛ぶように走りかえり、悲しみはきわまりありませんでした。受け継ぐ家産は富んで、親の願いを成就させようと念じるたびに、親に会うことはできず、何とも残念で、言い及ばば、はらはら涙がこぼれました。先生が祖国に忠誠をつくし、郷里に利益をあたえ、同胞を思いやるのはみな、純篤な親への思いから出たものだとわがわがわかります。

兄弟、互いに愛し合っていました。次弟は早世しました。先生はすぐに、甥の啓祥を日本につれて来て小・中学校を卒業させ、慶應義塾大学部に入學させました。他の者もみな才能を開花させました。三弟は竹崖で、先生は生涯、



呉麟初の子は全員、孫は関係者のみ表示
神戸華僑歴史博物館「陳徳仁コレクション」より作成

変わらず友愛を与え続けました。甥の啓鼎は竹崖君の子です。先生は学資を出して、上海梵王渡のセント・ジョーンズ大学に学ばせ、更にアメリカへ遊学させ、オハイオ大学へ入学させました。末弟の子、啓芳には、また、先生は学資を出して、上海高等実業学校で学ばせました。先生は、弟妹の子たちを自分の子のように愛し、少しの偏見もなく、また、より以上に処遇しました。また、よく、友愛の心を社会にも推し広めました。先生は、錦堂の学校の優れた学生を日本に招き、後日の興業の人材に備え、実業専門教育を受けさせました。その用意は深く広く、誠に、推し測れるものではありません。先生の人との交わりは、こころが率直で、真心を示し、他人に対し隔てる壁を設けないものでした。さらに、よく、友の難儀に、いち早く援助の手を差しのべました。国内

麟初先生棄養時

公正經商海外。聞訃星奔。痛悼罔極。嗣家資富有。每念欲成親志。而親不及見。以之爲憾。言及輒泣。然涕下乃知。公之忠祖國。惠鄉里。仁同胞。均由孝思之純篤而出也。友于諸昆仲弟早逝。公即携猶子啓祥至日。由中小學校卒業。入慶應義塾大學部。餘並成才。三弟竹崖。公一生與友愛如初。猶子啓鼎。竹崖君出也。公資令肆學上海梵王渡約翰大學。又資之游學美洲。入倭海育大學。季弟子啓芳。公亦資令肆業於上海高等實業學校。待視子姪。愛如己生。略無歧視。且加厚焉。又能推友于之心而廣諸社會。錦堂學校高才生。公招致東瀛。令受實業專門教育。以備後日興業之材。其用意深廣。誠莫可測矣。公與人交。坦坦示肝膽。不設城府。尤能急友難。內外國商界諸友。營業失敗。公均力爲斡旋。卒獲全。餘則神戶諸華商。每值事故。公悉爲周旋排解。不可枚舉。其篤於友誼有如此者。

外の商会の諸友が營業に失敗したとき、先生は全力で斡旋をし、ついに（事業を）全うさせました。のち、神戸の華僑仲間には事故が起こればそのたびに、先生は悉く周旋をして解決しました。このようなことは、枚挙にいとまがありません。その友誼の厚さはこのようでありました。
(以下、次頁へ続く)

『浙慈 呉錦堂先生六旬榮壽録』 「壽言」 日本語訳 (その9)

9

先生は生涯、人から恩恵を受けると、いつも終生忘れませんでした。商売を習ったときの師友、まだ無名のとき、病気になるたとき助けてもらった店の老女、等々すべて、永くその徳をいつまでも忘れず口にします。先生は、初めて神戸へ来たとき、鄭雪濤氏、藍卓峯氏に、或いは営業を扶けてもらい、或いは為替の決済を融通してもらいました。先生は、その恩恵をすべて、終生忘れません。これらを見ると、先生は恩を感じると必ずそれに報いてこられたことがわかります。一飯の恩に千金で報い、その度量は、古の英雄以上です。

先生が最初に娶った徐夫人は、男子と女子、各一人をもうけました。男子、啓藩は清朝から挙人を賜っています。女(むすめ)は徐氏に適(とつ)ぎ早死にします。民国二年、啓藩は鎮



呉錦堂と魏夫人が並んで写る貴重な写真です
呉錦堂の孫、曹愛徳氏(蘇州在住)所蔵

海の虞氏を娶り、その年、一子をもうけます。

先生は、続いて、丁夫人を娶り、両家の跡継ぎを兼ねることになります。そこで、続いて、

魏夫人を娶ります。ともに日本の舞子の別荘に住んでいます。先生は朝早く起きて夜遅く眠り、家を維持するのに勤儉質朴を主とし、

一門の内、大小、丁稚・下男を雇い、みな、その仕事を謹んで守っています。人は、ただ、

先生が赤貧から身を起こし巨富をえたのは、

きつと、金貸し業を独占

して金持ちになったのだとしか見ていません。

しかし、人は、そのわずかずつ積み重ねたこと、たくさんの艱難困苦によってこれを得たことを知りません。人は、ただ、先生が国を愛し、郷

里を衛る義憤に燃えて、喜んで寄付をするのは、きつと、功名心からだとしか見ていません。しかし、人は、その事業の始めが父親の訓えで、

それが、報国、済衆を推し進め、これを励まし

公生平受人一惠。輒終

生不忘。於習賈時之師友。及微時客病之店媪。均永憶其德。

時時稱述不去口。公初至神時。蒙鄭君雪濤。藍君卓峰。或

扶持營業。或融通滙兌。公均沒齒不忘其惠。又以知公

之感恩必報。一飯千金。其胸襟不讓古英雄也。公元配徐

夫人生子女各一。子啓藩前清時欽賜舉人。女適徐氏早卒。

民國二年。啓藩娶鎮海虞氏。本年舉一子。公續娶丁夫人。

又以兼祧兩宗。故續娶魏夫人。偕居日本舞子別墅。公夙

興夜寐。持家以樸儉爲主。一門之内。大小傭夥僕役。皆恪守

其職。人第見公以赤貧至鉅富。必壟斷倍貸而致者。而不

知其積銖累寸。均由停辛佇苦而得之。人第見公愛國衛

鄉。慷慨樂輸。必喜近功名而然。而不知其圖業之始。趨庭之

訓。即舉報國濟衆而勗之。人第見公愛友急難。必性喜任

俠而然。不知悉本其內行肫篤。錫類推仁之心而行之。蓋

公之享厚實。而膺美名。非術致色取已也。

たことを知りません。人は、ただ、先生が友を愛し、その難儀にいち早く援助の手をさしのべるのは、きつと、男気があるからだとしか見ていません。しかし、人は、すべて、性格が誠実で、まわりの人を思いやる心でこれを行ったことを知りません。まさしく、先生は富裕で、しかも名声があります。これらは、術策、媚を用いて得たものではありません。(以下、次頁)

『浙慈 吳錦堂先生六旬榮壽録』 「壽言」 日本語訳 (その10)

10

先生は今年、六十歳です。舞濱(舞子ヶ濱)に住みます。門は高い松に対し、樓は大海を見下ろしています。一家は、夫婦仲が良く、睦ましく穏やかです。子供夫婦は賢く親孝行で、孫を抱きかかえ、私事に浸ることもできません。しかし、先生はいつも、国家のことを心にかけて、興利、勸学、企業など多くの遠大な計画において、その思いは以前と同じように盛大で、(今までやって来た仕事に)まだ満足でなく、心は落ち着きません。見るところ、先生の気力は普通人にはるかに勝っていて、将来、百歳まで長生きされます。数十年内に大事業を計画し、遠大な利を準備されれば、(気力・体力は)なお、元気の良い若者二、三人に匹敵しますから、先生が着手されれば、事業の成功は確かなものとして予見できます。



吳錦堂が運営に尽力した中華会館戦災で焼失 中華会館編『落地生根』(二〇〇〇年発行)より

親しく萬蔓のように結びついた

間柄で、先生の出処行いを平素から深く仰慕しています。また、王方洽、錢麗泉らは、日本で先生と最も長くいっしょに商売をしています。ふだん、先生は僑地同胞の疾苦、困苦を救い、教育を謀りましたので、老人は生を全うでき、死には墓があり、子供は教育が受けられるようになったことなど、詳しく見聞するところです。その上、最近、商会(中華会館)が組織され、度々、先生を理事長に推挙し、直接、教えを受け助けを仰ぐことができ、みんな、敬服にたえません。先生の行いの偉大なことを敬し、さらに、先生の実り多きことを祈念し、謹んで、平素、見聞するところを順序・配列をきめ、先生の事蹟を寿言として献上し、もって、お祝いとするしだいです。もとより、耳目が狭いことは承知しています。文章の述べるところは十分で、先生の生涯の万分の一にすぎません。

公今年六旬矣。

家居舞濱。門對高松。樓瞰大海。一門之内。琴瑟雍穆。子姪賢孝。抱孫含飴。自顧甚得。然公每念及國家。於興利、勸學、企業、諸大計。猶若意皇然而未足。心怵然而不寧。是又見公之精神意量。遠出尋常人萬萬。日後壽登期頤。數十年內規畫大計。籌備遠利。尚足抵少壯人二三輩。是又可為公預必者也。尊篋啓標等與公。或居同里閭。或親聯萬籬。於公之出處行事。素所深其仰止。而方洽麗泉等。又在日本。與公共事於商界最久。平時於公之對於僑地同胞。拯疾困。謀教育。使老有終。死有宅。幼有教。均見聞甚詳。且近年組立商會。迭舉公為總理。得親承教言。仰賴裨益。衆心尤為欽感。既欽公行事之偉。又慶公大年可卜。爰謹即平日所見聞。詮次公之行事貢作壽言以當華祝。固知耳目甚隘。文之所言。不足以盡公生平之萬一也。

中華民國三年甲寅堯曆十月初五日
宣威將軍兼參政院議員蔣尊篋

中華民國三年(一九一四年)甲寅堯曆十月五日
宣威將軍兼參政院議員蔣尊篋

編集委員補注■(1)原文、後ろから2行目、「堯曆」は、帝堯の時の曆。(2)右枠内原文の後、大中華民國駐日特任全權公使陸宗輿以下、七十四人の名が続く、最後に、「郷晚葉瀚謹撰 受業姚江胡感和頓首拜書」とあります。(終)